

ウェルネスサポートチームの取組と振り返り

2023年より社員を心身両面からサポートし生き生きと働けるようにウェルネスサポートチームを設置しました。チームとしての体制整備や窓口を充実したことで多くの社員との接点が確保ができたことで、労働生産性損失の減少が見られました。また、能登半島地震の発生後は、社員のメンタルヘルスケアに重点的に取り組んでいます。

ウェルネスサポートチームの取組

	主な取組（実績）	現状・振り返り	解決策・打ち手
こころ	嘱託医カウンセリング(79件) スーパービジョン(60件) 医療連携(27件) EAP活動(相談窓口72件) 産業カウンセリング(285人) 障がい者支援(社員面談46人、採用時面談28人) 震災時PFA活動(相談窓口面談65件、嘱託医面談13件) ラインケア活動(15部署)	【効果】 ・ 休職期間の減少(5.3月/人(▲1.0月)) ・ 欠勤率の減少(2.00%(▲0.97%)) 【課題】 ・ 長期休職割合1.4%(同業平均1.2%)	・ 社員が生き生きと働き組織の活性化を目指すポジティブ・メンタルヘルスの強化 ・ デジタル活用によるアプローチ（データ集約・オンライン面談の活用） ・ D&I動画の配信 ・ 障がい者の方へのジョブコーチ （職場適応援助） ・ 能登地区心理的支援活動
からだ	診療・復職面談(115人) 各種保健指導・健康診断受診勧奨(720人) 保健師個別フォロー(1,270件) 労災二次健診 歯科検診	【効果】 ・ 本人と職場のスムーズな復職をサポート ・ 両立支援社員の接点増加 ・ 食事面の保健指導 【課題】 ・ 生活習慣の改善 喫煙率 13.6%(厚労省目標12.0%) 運動習慣 30.0%(全国平均32.8%) 高血糖の割合 43.1%(全国平均40.5%)	・ 社員向けセミナーなどポピュレーションアプローチの実施 ・ 個別社員への働きかけ ・ 健診等早期発見・治療と重症化の予防 ・ データヘルス計画のアウトカム ・ 健康評価を意識した保健指導 ・ 食事習慣改善へのアプローチ

参考：労働生産性損失額 2023年度50百万円（前年比▲5百万円）

※算出方法 欠勤・休職日数×平均賃金